

2004年6月17日

株式会社 富士キメラ総研  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町  
2-5 F・Kビル  
TEL.03-3664-5841 FAX.03-3661-7696  
URL: <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>

広報部 tel: 03-3664-5697  
mail address: koho@fuji-keizai.co.jp

## プラスチックフィルム・シート市場の調査を実施

2007年市場予測

生分解性プラスチックフィルム・シート(グリーンプラ)は238億円(03年比378%)に拡大

TAC(トリアセチルセルロース)フィルムは755億円(03年比229%)に拡大

ポリエステルフィルムの市場規模は2090億円(03年比136%)

国内市場の規模(対象49品目)は03年1兆2370億円から、1兆4800億円(03年比120%)に

\*TAC(トリアセチルセルロース)フィルムは、偏光膜保護フィルムであり、主に液晶関連製品に使用される。

マーケティング&コンサルティングの(株)富士キメラ総研(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長表良吉 03-3664-5841)は、今年4月から6月にかけてプラスチックフィルム・シート市場の調査を行った。

この調査では、プラスチックフィルム分野で、汎用プラスチック27品目、エンプラ10品目、スーパーエンプラ4品目、それにプラスチックシート8品目の合計49品目の国内市場概要をまとめた。さらにこの市場の環境対策動向や海外の需要の概況などを把握して、将来市場の方向を明らかにすることを目的とした。

このたび、その結果を調査報告書「2004年プラスチックフィルム・シートの現状と将来展望」(A4判 296P)にまとめて発刊した。

### <調査のまとめ>

プラスチックフィルム・シートは、さまざまな食品の安全衛生と鮮度を保つ多様な包装や、各種製品の梱包にはじまり、医薬品、農業用資材、建材、印刷、衣料、日用雑貨など利用用途は非常に広範に亘る。最近では多様な特性を活かして先端エレクトロニクス製品から情報メディア基材にも利用され、商品の製造・流通・販売の各場面で重要な役割を果たしている。

今回の調査によるプラスチックフィルム・シート49品目トータルの国内市場(2003年実績)は約318.7万トン/1兆2370億円となり、プラスチック関連産業で最大クラスのマーケットを形成している。

今回は、フィルム・シート25品目(49品目中)の世界市場もエリア別に捉えた。その規模は約292万8000トン/年規模と推定される。同25品目の国内市場は合計約59万7000トン規模であり、日本の需要は世界市場の約20%を占める。

国内景気の長期低迷と、容器包装リサイクル法に代表される廃プラスチック関連の環境規制に呼応するように、フィルム・シートも従来の機能とコストの指標に、環境コストを加えた商品選択が大手企業を中心に浸透してきた。さらに需要企業のアジア地域進出にともなう現地生産への移行、またアジア製フィルムの日本進出などフィルム・シート市場の動向も大きな変革の時期を迎えている。日本のエレクトロニクス資材用高性能フィルム・シートは、世界市場で圧倒的に高い位置を占め、世界需要の大半をカバーする品目も多い。包装資材などの汎用フィルム・シートも、輸入品の流入など価格面で日本メーカーが不利な点もあるが、品質面で日本製品が上回り、二次加工技術や高付加価値品の供給、また現地生産などによる対応がなされるなど、世界市場に於ける日本製品の地位は安定している。

### 1) 成長が注目される個別分野

#### (1) 生分解性プラスチックフィルム・シート(グリーンプラ)

03年は63億円、07年には238億円規模(03年対比378%)に拡大と予測

生分解性プラスチックは、使用後は自然界の微生物により最終的に炭酸ガスと水などに分解される素材で「グリーンプラ」とも称せられる。農業用は古くからある石油由来の生分解性プラスチック製品で、主にマルチフィルムに利用されている。マルチフィルムを使用後回収することなく、そのまま畑に鋤き込むことが

できる点が評価されている。

今後は、石油由来の生分解性プラスチックフィルムよりも、ポリ乳酸を原料としたバイオマス由来タイプの需要増加が見込まれる。ポリ乳酸原料品は既存のプラスチックと同等程度の強度を持つため、包装材などで代替が徐々に進行していくためである。

\*本調査では、「生分解性プラスチック」は広義の意味で用いており、石油由来プラスチック、バイオマス由来プラスチック双方合わせたものを指す。

#### 注目の用途

2005年に開催予定の日本国際博覧会（愛知万博）で、生分解性プラスチックを食器類に活用し、使用後は生ゴミと一緒に回収してメタン発酵や堆肥化といった処理を施すことで、生分解性プラスチックが廃棄物削減や脱石油社会の実現に有効な素材であることをPRする計画が検討されている。

#### (2) TAC（トリアセチルセルロース）フィルム

03年は330億円、07年には755億円規模(03年対比229%)に拡大と予測

液晶テレビ市場が本格的に立ち上がり、液晶モニターの大型化、デスクトップパソコンモニターの液晶化が進み、TACフィルム需要は急増。今後も高い成長性が見込める市場となっている。この製品は、高透過率、光学的等方性の特性を持ち、偏光素子を保護することが可能なフィルムである。現在は液晶の偏光膜保護フィルムとして多く利用され、旧来の写真フィルム用感材に比べて均一性、平面性などでより厳しい特性が要求されている。韓国、台湾の偏光板メーカーの生産能力増強や、日本の偏光板メーカーの海外進出を背景に、海外需要・輸出が増加している。

今後も、液晶・偏光板需要の拡大に伴い、高い市場成長が見込まれる。コストパフォーマンスが良好で、他に競合する材料は無い。

#### (3) PETフィルム

03年は1540億円、07年には2090億円規模(03年比36%増)に拡大と予測

この製品は、耐熱性や透明性、寸法安定性といった特性を活かし、液晶周りの各フィルムやコンデンサーなどの工業用の需要が大幅に増加しており、2003年は前年比10%と大幅に成長している。PETフィルムの磁気テープ用途は主力のビデオカセットテープがDVDにシフトして減少傾向が続いている。しかしコストが比較的安価であるため、今後も一般使用フィルムとして工業用途、とりわけエレクトロニクス分野を中心に需要増が見込まれる。また、ナノテク技術を応用して多層化し強度、透明性、引き裂き易さなどの物性の強化や薄膜化を図ることが可能となるため、さらに用途分野が広がると見込まれる。

#### (4) PVCマーキングフィルム

03年は172億円、07年には200億円規模(03年比16%増)に拡大と予測

従来の単色、文字、ロゴなどの単純なタイプに変わり、多彩なグラフィック表現が可能な製品の需要が伸びて市場拡大に結びついている。企業の宣伝費削減の中、訴求効果の高い広告手段として、グラフィック性の高い製品の需要が拡大している。グラフィック性の高い看板/サインはこの製品の独壇場であり、市場は拡大を続けている。また、最近のグラフィック化の流れにともなってプリント技術が進歩し、プリント設備メーカーと共同で技術の改良、新技術の開発が進められている。さらに、ガラスなど透明資材向けや発光機能、セルフクリーニング機能などの機能化の進展による新規需要の開拓も進んでいる。

#### 注目の用途

##### ラッピングバス、電車

バス、電車を“動く広告塔”として利用する動きが広がっており、この製品が広く利用されている。2000年に東京都屋外広告条例が改正され、バス車体の広告面積が10倍以上に拡大されたことが大きなきっかけになり、バス、電車の広告が全国的に利用の広がりを見せている。

## 2) 全体の市場規模

03年の全体市場は1兆2370億円、07年には1兆4800億円規模(03年比20%増)に拡大と予測

この調査対象49品目の市場規模は、2003年で318万6790トン、1兆2370億円である。

(PETフィルムとラベル用シュリンクフィルムなど一部ダブルカウントを含む)

2003年の実績は、2000年比で数量1.7%、金額5.7%拡大した。2001年には景気の低迷から全体で前年比2%程度のマイナスを示したものの、その後順調に回復を続けている。

2007年までは、数量で毎年約2%、金額では3~6%程度の拡大を続けて、2007年には345万

3000トン、1兆4800億円規模に成長すると予測される。

### 3) 4分野別の国内市場推移

#### (1) 汎用プラスチックフィルム(27品目)

03年は6005億円、07年には6978億円規模(03年比16%増)に拡大と予測

この分野は、TAC(偏光膜保護フィルム)、生分解性プラスチック、PVC(ポリ塩化ビニール)などを中心に市場の成長が見込まれる。

TACフィルムの需要がLCD偏光膜保護用フィルムとして、高い成長を示している。LCD関連製品が急増しており、このフィルム市場は今後も高い成長が予測されている。生分解性プラスチックフィルム・シートは、2004年以降、最も高い成長性が予測される品目である。従来、農業用マルチフィルムの利用が中心であったが、バイオマス由来の包装資材向け用途が拡大、市場は高い成長を示している。PVCマーキングフィルムも、2000年に登場した東京都のラッピングバスにはじまる規制緩和と、印刷技術および貼付技術の向上によりサイン・看板用途の市場が拡大している。

#### (2) エンブラフィルム(10品目)

03年は2215億円、07年には2923億円規模(03年比32%増)に拡大と予測

この分野は、PETフィルム、PENフィルム、芳香族PCフィルムなどの成長が見込まれる。

芳香族PCフィルムは、光学製品に使用される。液晶関連製品の拡大に伴い、このフィルム市場も拡大が予測される。PETフィルムは、耐熱性、光学特性、寸法安定性などの特性を保持しており、また、コストも比較的安価で、一般使用フィルムとして今後も工業用途、とりわけエレクトロニクス分野を中心に需要増が見込まれる。

#### (3) スーパーエンブラフィルム(4品目)

03年は714億円、07年には926億円規模(03年対比30%増)に拡大と予測

PIフィルム、アラミドフィルムを中心に市場は成長する見込み。

PIフィルムは競合製品に比べて高耐熱性能に優れることから、回路基板周りによく使用され、携帯電話やデジタルカメラなど電子機器製品の需要の増加により急激に需要が拡大している。アラミドフィルムは、主力の磁気テープ用途のほかに、電気絶縁材用が高い伸びを示してきた。今後は、さらなる絶縁材料用途への拡販が期待されるが、コストに課題がある。

#### (4) プラスチックシート(8品目)

03年は3436億円、07年には3925億円規模(03年比14%増)に拡大と予測

PMMAシート、PCシート、A-PETシートが注目の市場

PMMAシートも液晶関連分野がプラス要因となっており、液晶バックライト導光板のベースシートとして需要が拡大している。A-PETシートは強度物性や透明性を生かし、鶏卵パックやフードトレイなどの透明食品容器向け需要が強い。今後はリサイクルなど環境適性もあり非食品分野での透明ケースなどに採用が拡大する。

#### <調査の概要>

調査の方法 専門調査員による直接ヒヤリング、および公表資料の収集・分析による。

調査期間 2004年2月から6月

資料タイトル:「2004年プラスチックフィルム・シートの現状と将来展望」

体 裁 : A4判 296頁

価 格 : 97,000円 (税込み101,850円)

調査・編集 : 富士キメラ総研 研究開発本部 第二研究開発部門

TEL 03-3664-5841 FAX 03-3661-7696 e-mail: info@fcr.co.jp

発 行 所 : 株式会社 富士キメラ総研

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5841 (代) FAX 03-3661-7696

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL: <http://www.group.fuji-keizai.co.jp>